



愛隣幼稚園.....

園だより

.....16. 9月号

この夏の出来事

夏休みが終わり元気な声が幼稚園に帰ってきました。先々週の夏期保育でほんの少しウォーミングアップをしていましたが、いよいよ本格的に幼稚園の生活が戻ってきました。夏期保育の初日、子どもたちは久しぶりの自分たちの居場所を仲間と堪能し満面の笑み。お家の皆さんはやっとこの日がきたという安堵の笑み。「夏休み」って楽しいけれど、やっぱり幼稚園があるっていい！そう思ってもらえることを複雑な思いと共に、嬉しく感じました。それにしても夏期保育の4日間の登園時間の早かったこと！9：00～9：15の登園時間が守られていました(笑)。2学期もこのペースで頑張りましょう！

ところで今年の夏休み、皆さんはどんな時間を子どもたちと過ごされたでしょうか？それぞれご家庭の状況が異なりますから様々な夏休みがあって、小さい子どもたちの多いご家庭はもしかするとなかなかハードな夏休みであったかもしれませんね。私はといえば、娘たちそれぞれの予定に付き合う夏休みでした。その中で観た2本の映画、1つは『ファインディング・ドリー』もう1つは『ペット』。この選択肢はさておき、『ファインディング・ドリー』はご存知の方も多いでしょう。前作の『ファインディング・ニモ』で大活躍したナンヨウハギのドリーが両親を探しに出かけるお話です。で、この主人公の特徴が、それはひどい“物忘れ”。かくれんぼしていてもかくれんぼしていることを忘れるほど。そして実はドリー、小さい頃に両親と離れ離れになってしまったことすら忘れていたのです。そんなドリーが、ふとしたことから思い出した両親を探しに行くというのですから、これがまた珍道中。それでも持ち前の前向きな性格と、たくさんの仲間たちの力を借りて、ドリーの冒険は続きます。ちょっと冷静に見るとこの忘れん坊ドリー、かなり手のかかる“困ったちゃん”なのですが、映画の中では誰からも愛されるドリーでした。そしてもう1つの『ペット』。(映画そのもののことはさておき) この映画の中に後ろ足が不自由になり車いすを使う老犬ポップスが登場します。個人のエピソードについては何も語られないのですが、多くの仲間の一人として活躍していました。忘れん坊のドリーも、車いすの老犬ポップスも、娯楽として見る映画の中にごくごく当たり前前に登場し活躍していることが、私の小さな発見でした。ひどい忘れん坊のドリーはそこが可愛いくて、ポップスの車椅子はちょっとカッコいい。「あ、そうね、それってそんなに特別なことじゃない。」そう感じる映画でした。

話は前後しますが、幼稚園が夏休みに入った翌週、相模原の障害者施設で悲しい事件が起きてしまいました。その前の週、私は千葉市の幼稚園の先生方が集まる研修会の挨拶で「私たちの社会は誰も排除しない、排除されない共生社会を目指して歩もうとしている。」という話をさせていただいていました。その直後の出来事。障害があるという理由で、いや、他のどんな理由であったとしても、誰も社会から排除されていい理由にはなりません。まして一人の人の命の価値など誰にも評価する権利などありません。神様からいただいた私たちひとり一人の存在は、ひとり一人違って、それをそのまま神様が良しとしてくださっているのです。私たちのすべきことは互いに尊重しあうことです。違いを知り、認め合い、違いゆえに助けが必要であれば補い合う。排除すべきものは、その人が生きていくうえで立ち足る社会の中にある障害そのものです。

愛隣の仲間たち(子どもも大人も)も一人ひとり違いをもった仲間たちです。そしてそれはごく当たり前のことで、違っていることはむしろいいことだということを、私たちはこの幼稚園生活の中で実感したいと願っています。そこには変えられる違いもありますが変えられない違いもあります。でも私たちは知っています。誰かの変えられないことがその人の生きにくさになる時には、変更可能な物や人が変わることによって生きやすくなると。そして違っている誰もが生き生きと輝いていることが私たちを嬉しくすることも。だからここを巣立っていった人たちには、ドリーもポップスもいて当たり前の共生社会の実現を目指してほしいのです。